

## 国際化学肥料ニュース（2022年10月）

### 肥料業界の2022年10月動態

- \* アメリカ農務省（USDA）はアメリカの農業生産者に対して肥料生産拡大と有効利用プログラムの下で助成金を支給すると発表した。肥料生産拡大助成金は総額5億ドル、2023年または2024年にアメリカ製の肥料生産を大幅に増やして競争を促進し、価格の上昇に対抗するためのプロジェクトおよび農業生産者が2023年または2024年に使用する肥料（窒素、リン酸塩、または加里）および代替栄養素の利用可能性を高めるプロジェクトに限って、最長5年間にわたって、最大1億ドルを助成するという。
  
- \* 中国政府は国内肥料供給を保障するため、2022年第4四半期（10～12月）の主要化学肥料輸出割当数量を絞った。消息筋によれば、第4四半期のりん安（DAP + MAP）輸出割当数量が110万トンと定められ、2020年同期の50.5%、「法定検査」が施行された2021年同期よりも約20万トン減らした。また、2023年春シーズンのために、第1四半期の割当数量がさらに減らすという噂がある。
  
- \* 10月6日、インドIPL社が尿素の国際入札を発表した。10月17日締め切りと開札、12月5日まで船積みという条件付き。購買数量が未定とするが、100万トンを購入するという。これはインド側が今年5回目の尿素国際入札である。  
インドが頻繁に尿素とDAPの国際入札を行う理由の一つは隣国のネパール、ブータンとスリランカに積極的に肥料を提供することである。今年にインドがすでに12万トン尿素と5万トンDAPをネパールに、5300トンDAPをブータンに、6.5万トン尿素をスリランカに輸出した。
  
- \* 10月7日、パキスタンの国営貿易会社パキスタン貿易公社（TCP）は30万トン尿素的の国際入札を発表した。10月17日締め切りと開札。9月9日パキスタン内閣の経済調査委員会（ECC）がTCPの30万トン尿素輸入計画を許可した。なお、尿素輸入に関わる補助金についてはパキスタン中央政府と各州政府がそれぞれ50%負担することを決めた。
  
- \* 10月17日、インドIPL社の尿素国際入札が開札された。19社の応札があり、応札量282万トン、最低応札価格がAmeropa社のCFR西海岸649.48ドル/トン、CFR東海岸655ドル/トンである。10月19日に約99.8万トンの購入を契約して、その後も53万トンの追加契約を行い、計150万トンの尿素を購入することになる。契約数量のう

ち、中東産尿素が 65～70 万トン、中国産 30～35 万トン、ロシア産 30～35 万トンのほか、マレーシア産 2 船、エジプト産 1 船も含まれている。

9 月 9 日締め切りの前回の尿素国際入札に比べ、今回の最低応札価格は 19～20 ドル／トン下がった。

- \* 中国税関の速報によれば、2022 年 9 月の中国化学肥料輸出量 314 万トン、その内訳は硫安 176 万トン、尿素 35 万トン、DAP47 万トン、MAP24 万トン。2022 年 1～9 月の中国化学肥料輸出量が前年同期より 33.8%減の 1727 万トン、その内訳は硫安が 23.8%増の 879 万トン、尿素が 60.8%減の 157 万トン、DAP が 50.5%減の 262 万トン、MAP が 56.5%減の 150 万トン。

2022 年 9 月の中国化学肥料輸入量が 72 万トン、その内訳は塩化加里 64 万トン、NPK 化成肥料 5 万トン。1～9 月の中国化学肥料輸入量が前年同期より 1.8%減の 700 万トン、その内訳は塩化加里が 2.8%増の 615 万トン、NPK 化成肥料が 33%減の 65 万トン。

- \* 10 月 23 日、中国の Asia Potash 社は中国 7 社の加里肥料商社とメーカーとの間にラオス産塩化加里の輸出覚書を締結した。その内容は Asia Potash 社が 2022 年 10 月～2023 年 12 月までに中国 7 社に最大 155 万トン塩化加里を輸出することである。

2010 年代から中国企業がラオスで加里資源の採掘と塩化加里の生産を行い、2018 年から塩化加里を中国に輸出し始めた。その輸出数量が 2018 年に 25 万トン、2019 年に 20 万トン、2020 年に 13 万トン、2021 年に 42 万トン、2022 年 1～9 月だけで 45 万トンも輸出した。2021 年末現在、中国の Asia Potash 社と East Steel Tower 社の 2 社がすでにラオスに年間 100 万トン以上の塩化加里生産能力を有し、2023 年にはその生産能力が 200～300 万トンに達する見込みである。

- \* 中国政府統計局の統計データによれば、2022 年 1～9 月の中国化学肥料生産量（N、P2O5、K2O 換算）が 0.1%減の 4088.3 万トン、輸出量（実量）が 33.8%減の 1727 万トン。りん鉱石採掘量（30%P2O5 換算）が 4.1%増の 7826.8 万トン。

- \* 中国税関の速報によれば、9 月中国尿素輸出量 34.7 万トンのうち、インドへの輸出量が 19.7 万トンで、半分以上を占めて、ほかにパキスタンには 5.1 万トン、韓国には 3.2 万トンを輸出した。インドに大量の尿素を輸出した理由はインド RCF 社の 9 月 9 日締切の 4 回目尿素国際入札に中国産尿素 20～30 万トンが契約されたことである。ただし、1～9 月インドに輸出した尿素が 53 万トンしかなく、前年同期より 70%も減少した。

- \* 中国は尿素輸出に「法定検査」を実施しているにもかかわらず、パキスタンに対して多量の尿素を輸出した。政府間協定の形で1～9月にすでに35万トン尿素（2月に15万トン、6月に20万トン）を提供して、ほかに10万トンの尿素を10月に輸出する見込みである。
- \* 10月17日に開札されたパキスタンの国営貿易会社TCP社の30万トン尿素の国際入札に1社だけ応札したため、入札自体が無効となり、再入札となった。消息筋によれば、パキスタン政府は中国政府に対して、政府間協定の形で30万トン尿素の提供を申し込むことを予定している。
- \* インドIPL社の尿素国際入札契約状況により10月第4週（10月17～23日）の尿素国際相場は若干動いている。東半球では、インドの尿素入札で約150万トン購入することにより、主なサプライヤーの在庫が一掃され、中東湾岸、エジプト、東南アジア産尿素のFOB価格が15～25ドル/トン上がった。西半球では逆にバイヤーの動きが鈍く、バルト海、黒海、アルジェリア産尿素が10～35ドル/トン下がった。
- \* アンモニアの国際相場は、南北アメリカ、中東、東南アジアの過剰生産能力が急速に現れ、主要な輸入地域で価格への下げ圧力が発生している。10月中旬のCFRアメリカは1150ドル/トンであったが、11月積みの契約では1125ドル/トンで、25ドルも下げた。中東および東南アジアから三井物産と三菱商事を經由してヨーロッパおよび北アフリカへアンモニアのスポット販売が増えて、韓国や台湾などの主要輸入国の産業部門からの需要の欠如を反映している。また、中国もアンモニアを定期的にインドとモロッコに輸出していることは中東と東南アジアのサプライヤーに危機感を与えている。弱気のセンチメントは2023年まで続く可能性が高い。
- \* ベトナム税関の速報によれば、世界的な肥料不足と価格高騰に伴い、2022年1～9月のベトナム化学肥料輸出量が前年同期より45.4%増の139万トン、輸出金額が166%増の8.86億ドル。  
ベトナムの化学肥料輸出は主に尿素で、ほかに少量の過リン酸石灰とDAPもある。ベトナムには4か所の尿素工場があり、バリア＝ブンタウ省にあるĐạm Phú Mỹ 窒素肥料工場の尿素生産能力80万トン、カワウ省にあるĐạm Cà Mau 窒素肥料工場の尿素生産能力80万トン、バクサン省にあるĐạm Hà Bắc 肥料工場の尿素生産能力50万トン、ニンビン省にあるĐạm Ninh Bình 肥料工場の尿素生産能力56万トンの計256万トンを有する。

- \* 2022年に入ってから、中国産アンモニアの輸出量が急増した。1～9月のアンモニア輸出量が前年同期より5751.26%増の10.53万トン、主な輸出先はインドである。その理由は尿素などの窒素肥料輸出時に「法定検査」が必要で、輸出が厳しく制限されているが、アンモニアが「法定検査」のリストに入っていないため、尿素の代わりに輸出が急増した。

#### 大手各社の営業業績

- \* 化学肥料の価格高騰の影響を受け、中国3大国営りん酸肥料メーカーの1～6月期業績が大幅に増加した。最大手の雲天化社は売上高が18.4%増の366.23億人民元（約51.6億ドル）、純利益が120.48%増の34.66億人民元（約4.9億ドル）。興国グループ社は売上高が74.45%増の172.99億人民元（約24.4億ドル）、純利益が211.62%増の36.5億人民元（約5.14億ドル）。湖北宜化社は売上高が18.89%増の111.15億人民元（約15.7億ドル）、純利益が129.53%増の16.65億人民元（2.35億ドル）。

#### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

#### その他